

■ 概要

最新ブラウザ対応版(InternetExplore11 対応、2015 年 2 月リリース)は「互換表示」の設定が不要となりました。設定手順は以下の通りです。また、Windows10 で使用する場合の注意事項は(6)を参照ください。

(1) ブラウザのバージョンを確認します。

→ [\(1\) ブラウザバージョンの確認へ](#)

既にバージョンが解っている場合は(2)へ進みます。

(2) 各システムサービス画面へアクセスします。

→ [\(2\) 各システムサービス画面へのアクセス手順へ](#)

各システムサービス画面へアクセスした後、(3)～(5)の設定または確認を行います。

(3) ポップアップブロックの解除を行います。

→ [\(3\) ポップアップブロックの解除手順へ](#)

既にポップアップブロックが解除されている場合は(4)へお進み下さい。

(4) その他の設定を行います。

→ [\(4\) その他の設定手順へ](#)

以下を設定します。

1) 信頼済みサイトの追加

下記ドメインを信頼済みサイトに設定します。

- ・ <https://svc.mdpc.or.jp/>
- ・ <http://svc.mdpc.or.jp/>

2) レベルのカスタマイズ

- ・ ActiveX コントロールとプラグインの実行：有効にする
- ・ スクリプトレットの許可：有効にする
- ・ 未署名の ActiveX コントロールのダウンロード：有効にする
- ・ ポップアップブロックの使用：無効にする
- ・ ファイルのダウンロード：有効にする

既に上記設定を行っている場合(5)へお進み下さい。

(5) 旧システムをご使用されていた場合、「互換表示」設定の解除を行います。

→ [\(5\) 「互換表示」設定の解除手順へ](#)

新規ご使用の場合は本設定は不要です。

(6) Windows10 で使用する場合の注意事項

→ [\(6\) Windows10 の注意事項へ](#)

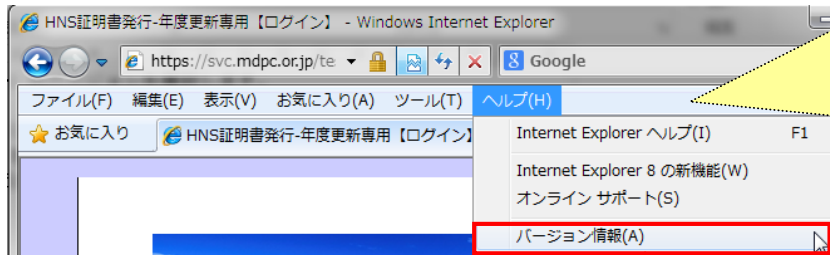
(1) ブラウザバージョンの確認

まず、お使いのブラウザ（Internet Explorer）のバージョンを確認します。

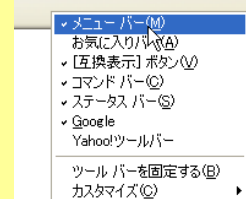
手順①：ブラウザ（Internet Explorer）を起動します。

手順②：「ヘルプ／バージョン情報」メニューを選択します。

ブラウザのバージョン情報表示画面が開きます。確認の上、ブラウザバージョンに従った設定手順に進んで下さい。



※メニューが表示されていない場合、ブラウザ画面上段でマウス右ボタンを押すとメニューが表示されますので、メニュー内の「メニューバー」を選択して下さい。



ブラウザバージョンは、Internet Explorer 8 です。



ブラウザバージョンは、Internet Explorer 9 です。



ブラウザバージョンは、Internet Explorer 10 です。



ブラウザバージョンは、Internet Explorer 11 です。

→ [概要へ戻る](#)

→ [\(2\) 各システムサービス画面へのアクセス手順へ進む](#)

(2) 各システムサービス画面へのアクセス手順

①ブラウザ(InternetExplorer)を開き、海上災害防止センターホームページへアクセスします。

<http://www.mdpc.or.jp/>



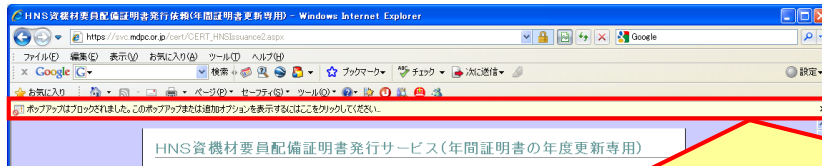
②トップ画面の「各種サービス・申込み」にあるシステムリンクを選択します。



→ 概要へ戻る
→ (3) ポップアップブロックの解除手順へ進む

(3) ポップアップブロックの解除手順

- ・ポップアップブロックが有効の場合、以下の手順で確認・解除の操作を行って下さい。



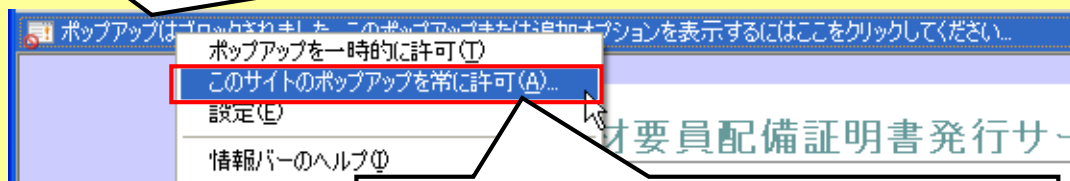
画面上段にこの表示が出てませんか？

ポップアップはブロックされました。このポップアップまたは追加オプションを表示するにはここをクリックしてください...

⇒上記表示がある場合、以下の操作を行って下さい。

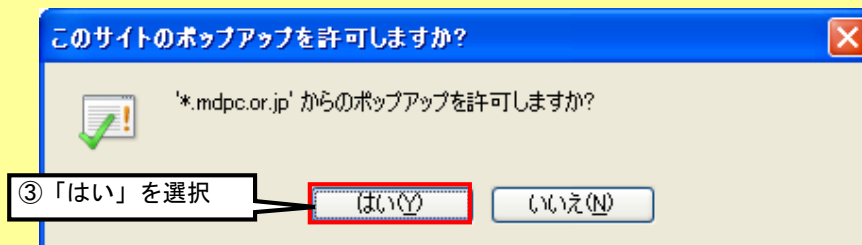
- 1) 「ポップアップはブロックされました。…」バーをマウスクリックし、メニューの「このサイトのポップアップを常に許可」を選択します。

①「ポップアップはブロックされました。…」バーをマウスクリック



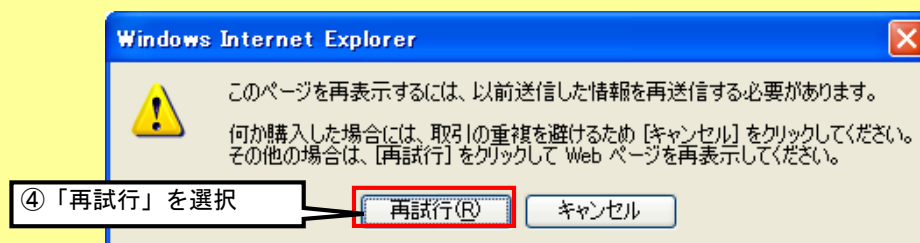
②メニュー「このサイトのポップアップを常に許可」を選択

- 2) 「このサイトのポップアップを許可しますか？」画面で「はい」を選択します。



③「はい」を選択

- 3) 「Windows Internet Explorer」画面で「再試行」を選択します。



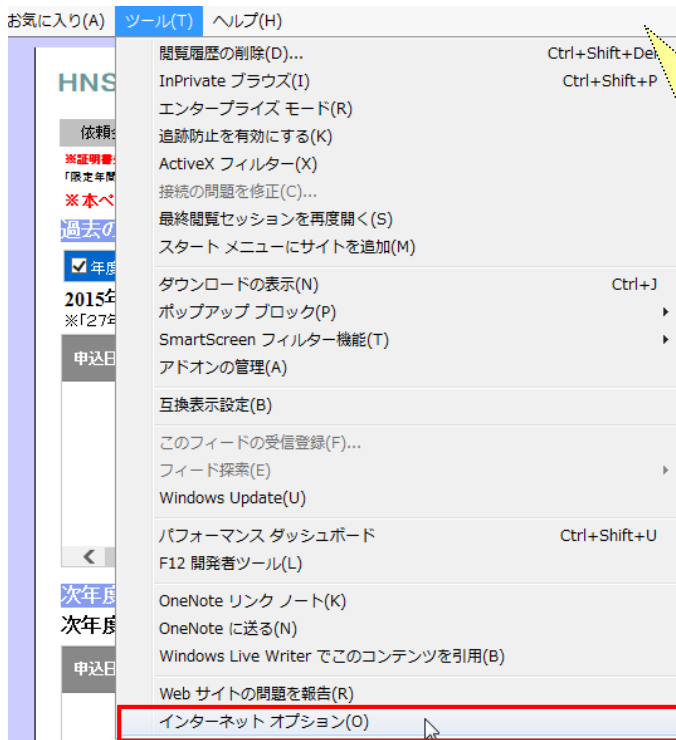
④「再試行」を選択

⇒上記表示はないが、発行依頼等の画面が開かない場合、次ページを参照しポップアップブロックの解除操作を行って下さい。

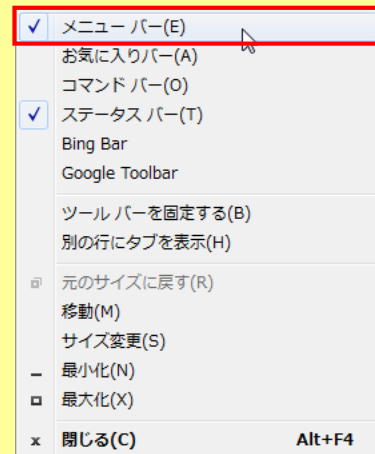
ポップアップの解除手順

手順①：ブラウザ(Internet Explorer)を起動します。

手順②：「ツール／インターネットオプション」メニューを選択します。

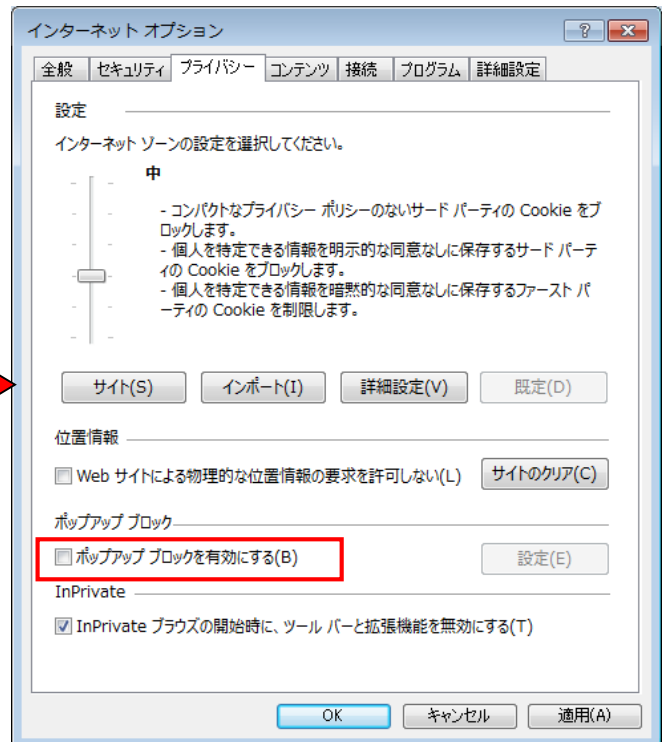
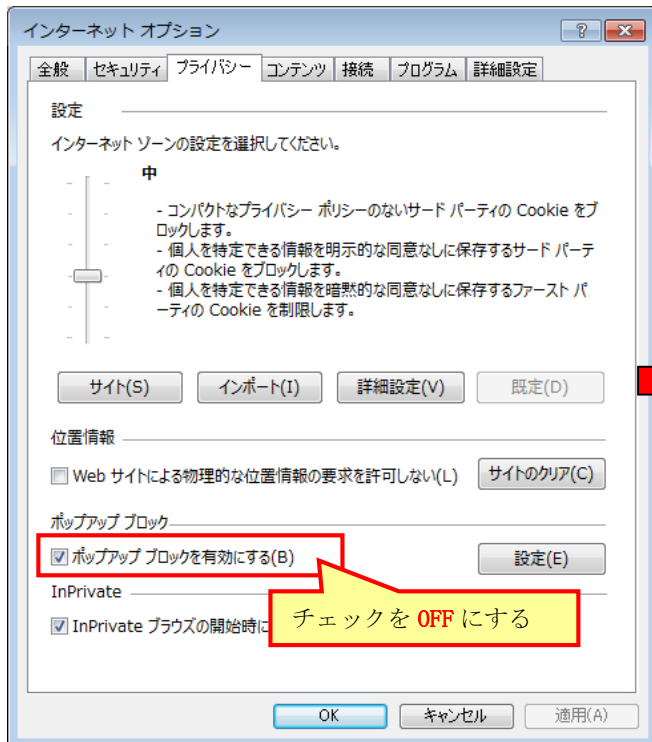


※メニューが表示されていない場合、ブラウザ画面上段でマウス右ボタンを押すとメニューが表示されますので、メニュー内の「メニューバー」を選択して下さい。



手順③：「インターネット オプション」画面で「プライバシー」タブを選択し、画面下部「ポップアップ ブロック」内の「ポップアップ ブロックを有効にする」のチェックをOFFにします。

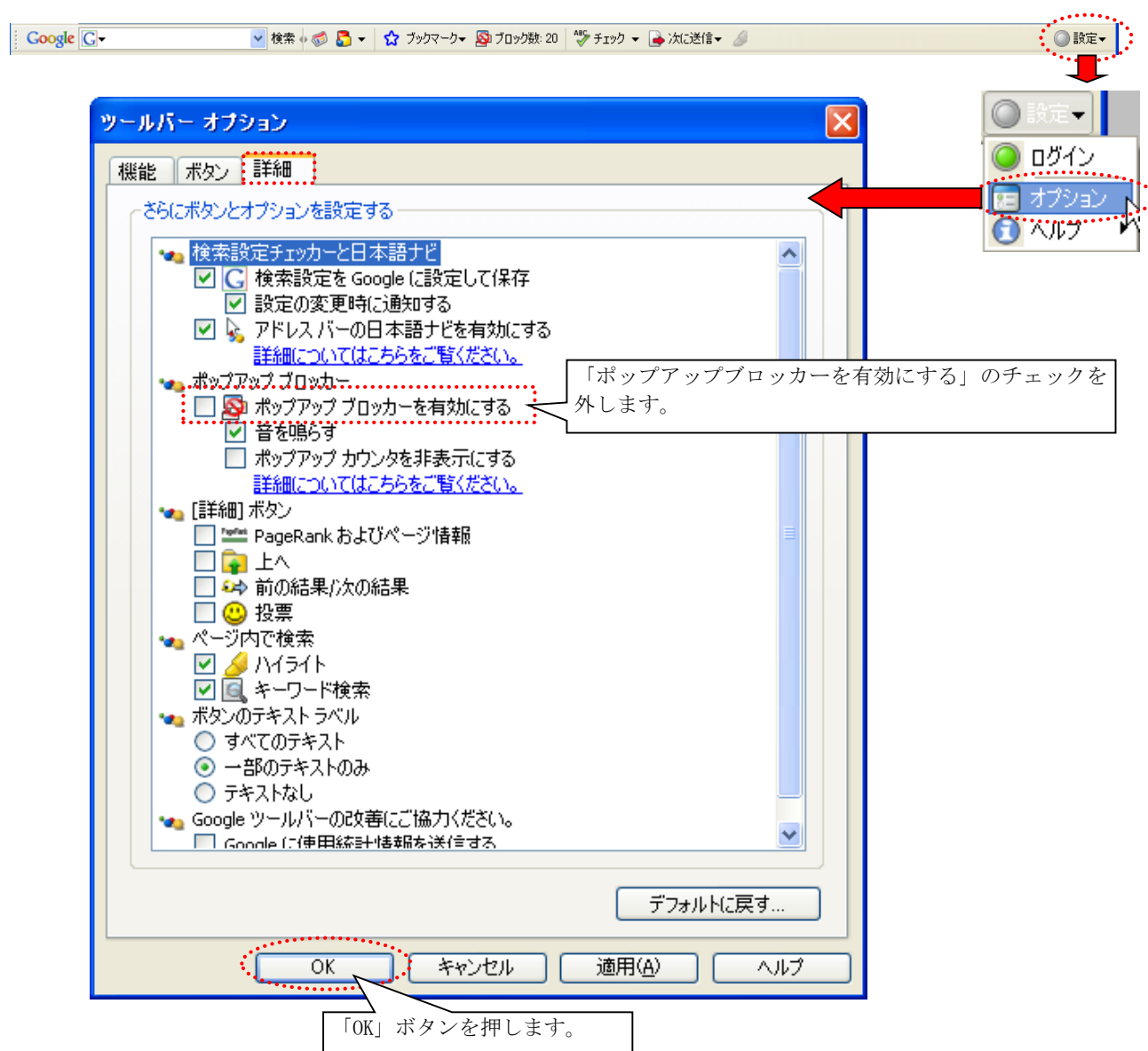
手順④：「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



付録：Google ツールバーの設定手順

・ブラウザに「Google」ツールバーを設定している場合は、「Google」ツールバーのポップアップブロック解除の設定が必要となります。

- 1) 「Google」ツールバーのメニュー「設定」を選択し、「オプション」を選択します。
- 2) 「ツールバー オプション」画面の「詳細」タブを選択し、「ポップアップブロッカー」の「ポップアップブロッカーを有効にする」のチェックを OFF にします。
- 3) 「ツールバー オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



(4) その他の設定手順

→ [IE8 の設定手順](#) → [IE9 の設定手順](#) → [IE10, 11 の設定手順](#)

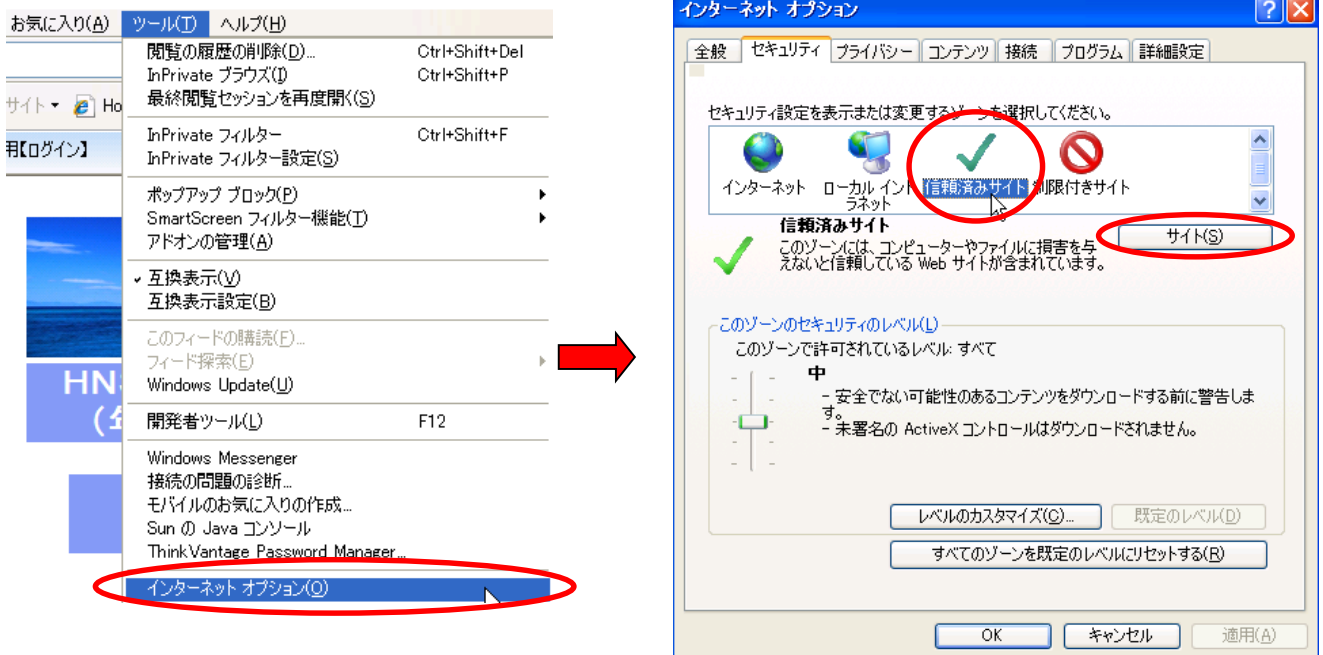
(4-1) IE8 の設定手順

1) 信頼済みサイトの追加

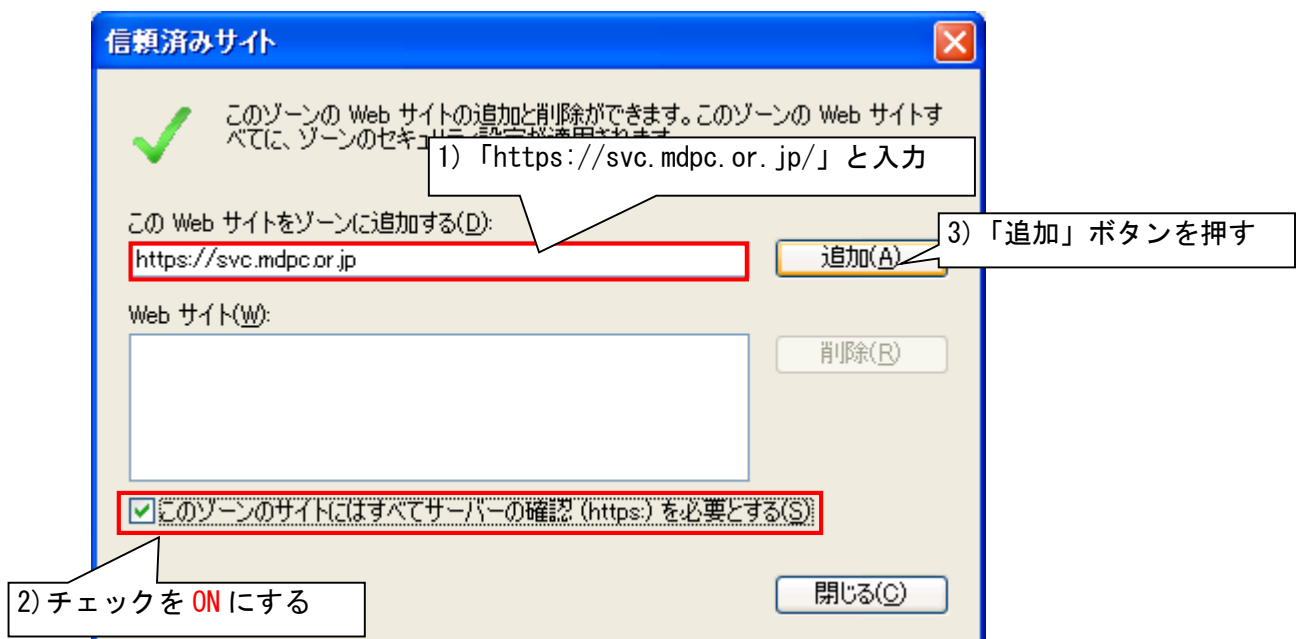
手順①：ブラウザ(Internet Explorer)を起動します。

手順②：「ツール／インターネットオプション／セキュリティ」メニューを選択します。

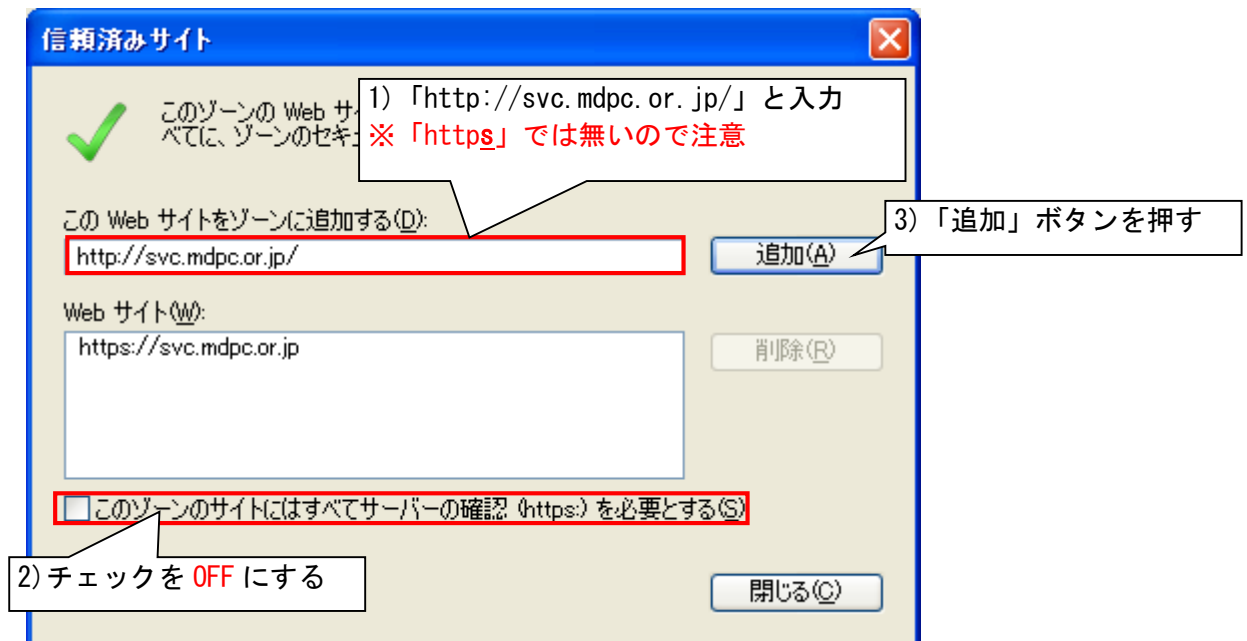
手順③：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンを押します。



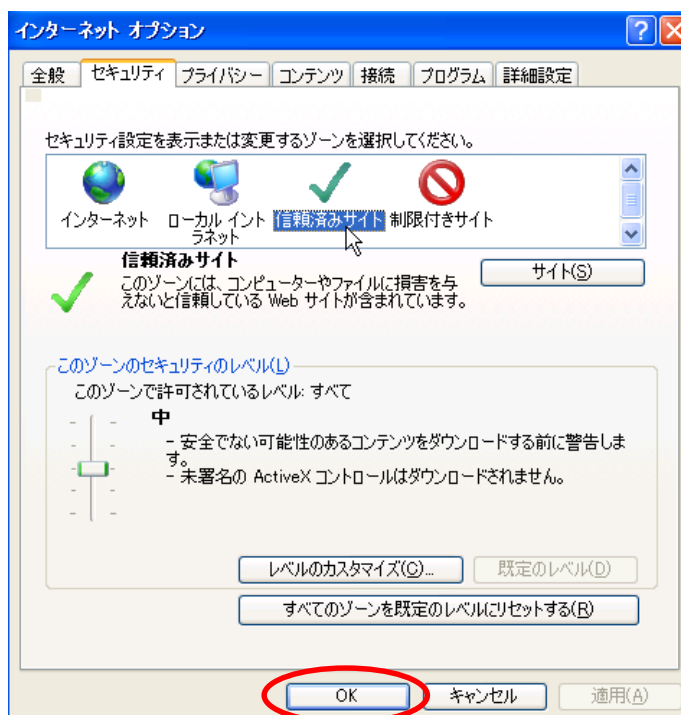
手順④：「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『https://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを ON にします。『追加』ボタンを押します。



手順⑤:「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『http://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを OFF にします。『追加』ボタンを押します。

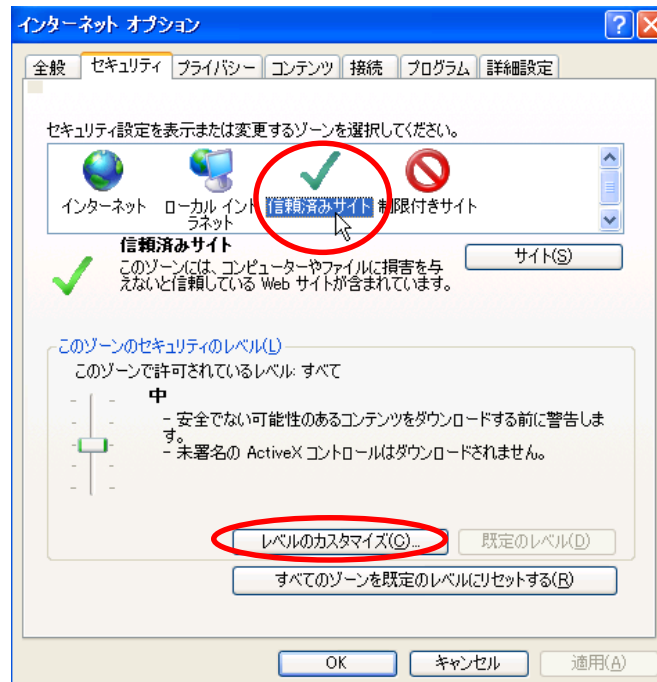


手順⑥:「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。

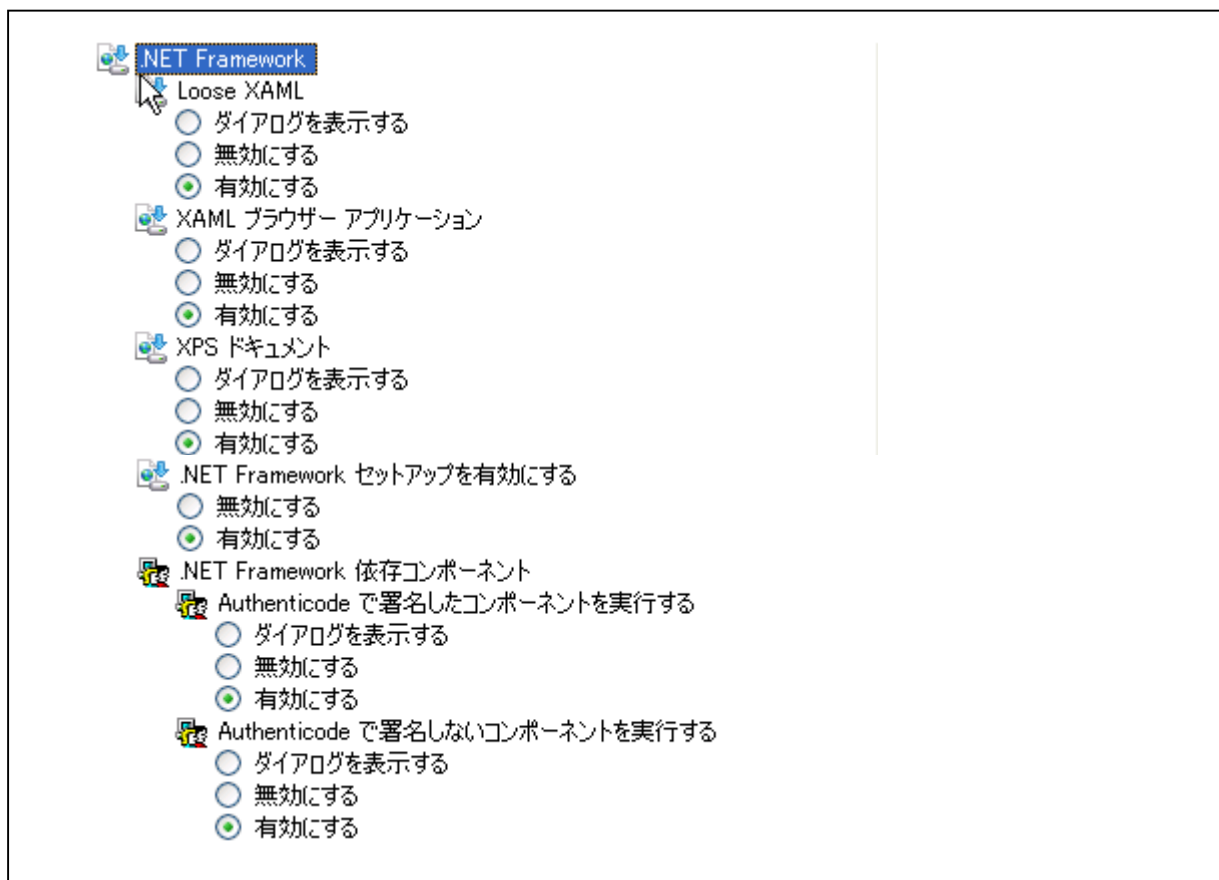


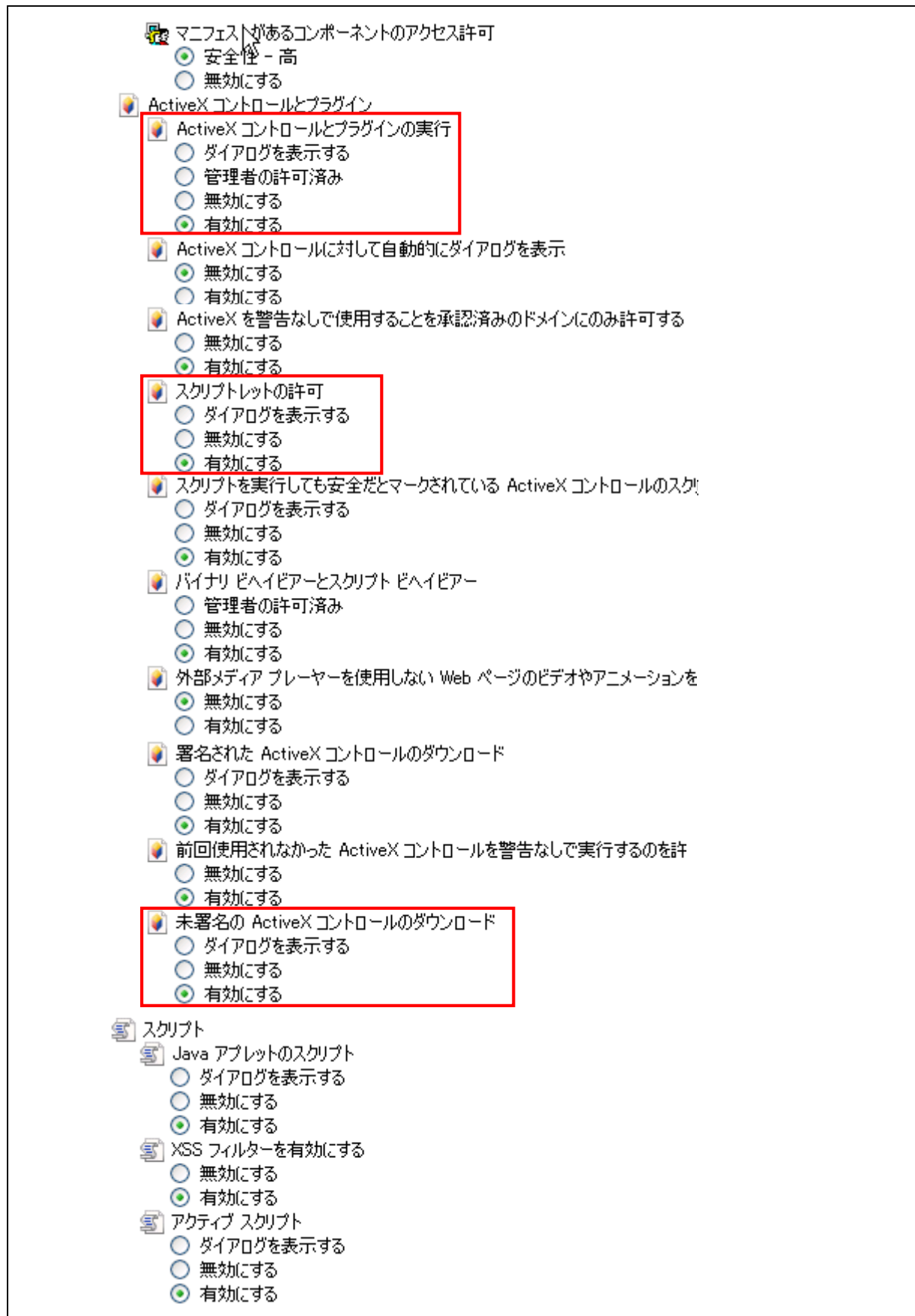
2) レベルのカスタマイズ

手順①：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンを押します。



手順②：「セキュリティ設定」画面の各項目を下記の通りに設定し、「OK」ボタンを押します。**赤枠の項目を確認して設定して下さい。**

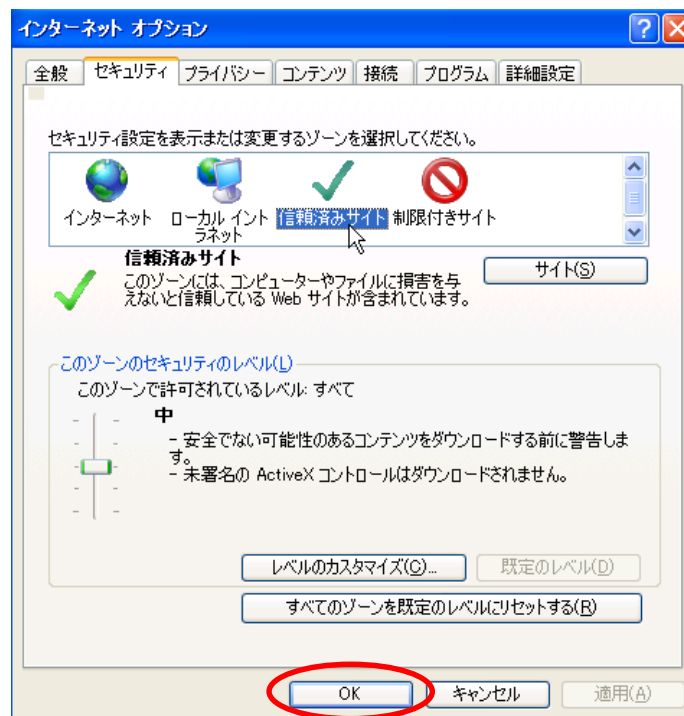




-  スクリプトでのステータス バーの更新を許可する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  スクリプトによる貼り付け処理の許可
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
-  スクリプト化されたウィンドウを使って情報の入力を求めることを Web サイトに
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  その他
 -  IFRAME のプログラムとファイルの起動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  Microsoft Web ブラウザー コントロールのスク립トの実行を許可する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  SmartScreen フィルター機能を使う
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  UserData の常設
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  Web サイトがアドレス バーやステータス バーのないウィンドウを開くのを許可する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  Web ページが、制限されたプロトコルをアクティブ コンテンツに使用することを許可する
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  アプリケーションと安全でないファイルの起動
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  サーバーにファイルをアップロードするときにローカル ディレクトリのパスを含める
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開くことを許可する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  デスクトップ項目のインストール
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  ドメイン間でのデータ ソースのアクセス
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする

-  ファイルのドラッグ/ドロップ、またはコピー/貼り付け
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  ページの自動読み込み
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  ポップアップ ブロックの使用
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
-  より権限の少ない Web コンテンツ ゾーンの Web サイトがこのゾーンに移動
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
-  暗号化されていないフォーム データの送信
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  異なるドメイン間のウィンドウとフレームの移動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
-  拡張子ではなく、内容によってファイルを開く
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  既存のクライアント証明書が 1 つ、または存在しない場合の証明書の選択
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  混在したコンテンツを表示する
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
-  ダウンロード
 -  ファイルのダウンロード
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  フォントのダウンロード
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  ユーザー認証
 -  ログオン
 - ☒ イン트라ネット ゾーンでのみ自動的にログオンする
 - ☐ ユーザー名とパスワードを入力してログオンする
 - ☐ 現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする
 - ☐ 匿名でログオンする

手順③:「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



→ [概要へ戻る](#)

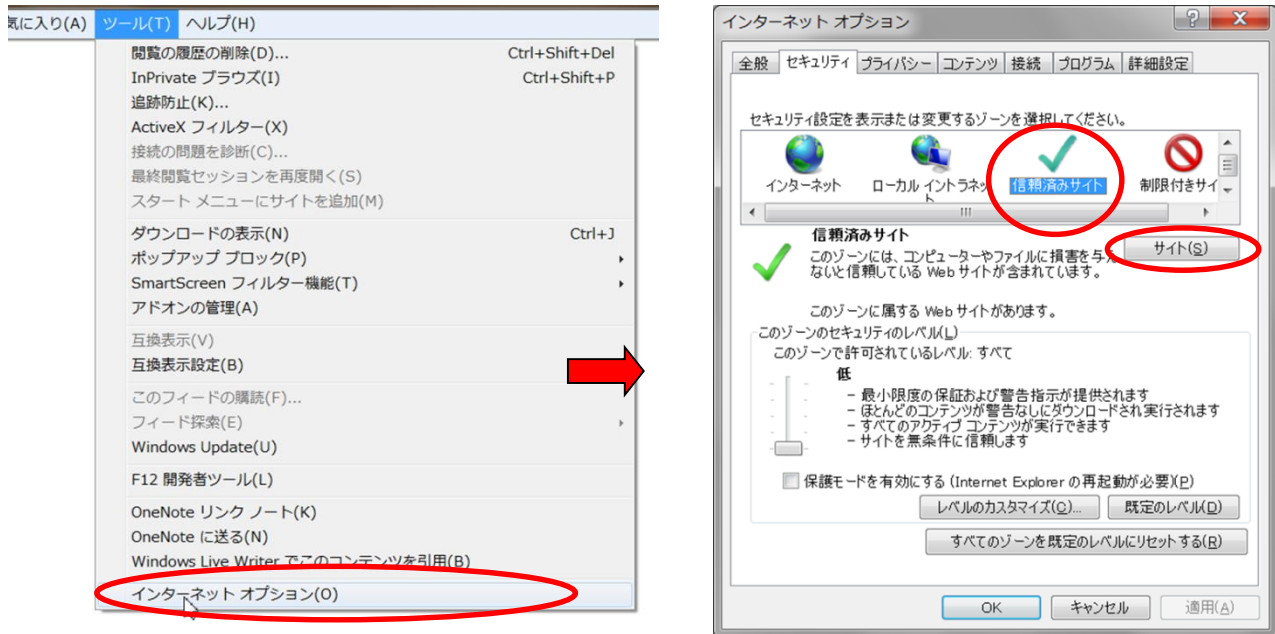
(4-2) IE9 の設定手順

1) 信頼済みサイトの追加

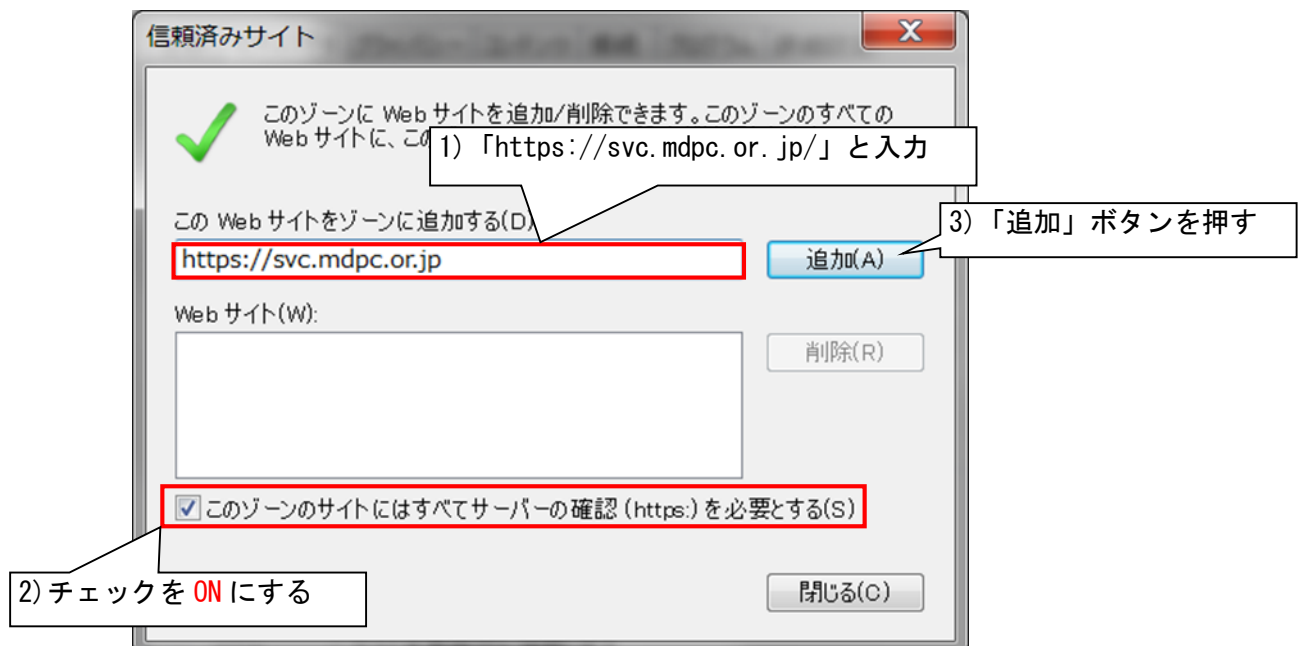
手順①：ブラウザ(Internet Explorer)を起動します。

手順②：「ツール／インターネットオプション／セキュリティ」メニューを選択します。

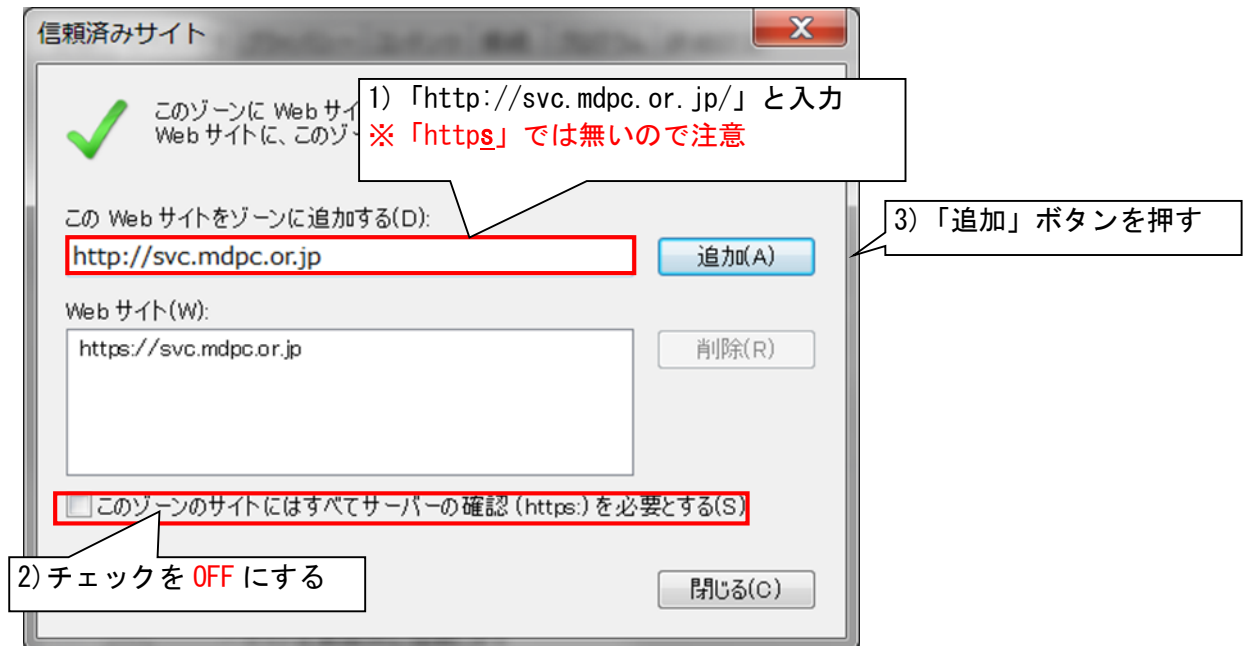
手順③：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンを押します。



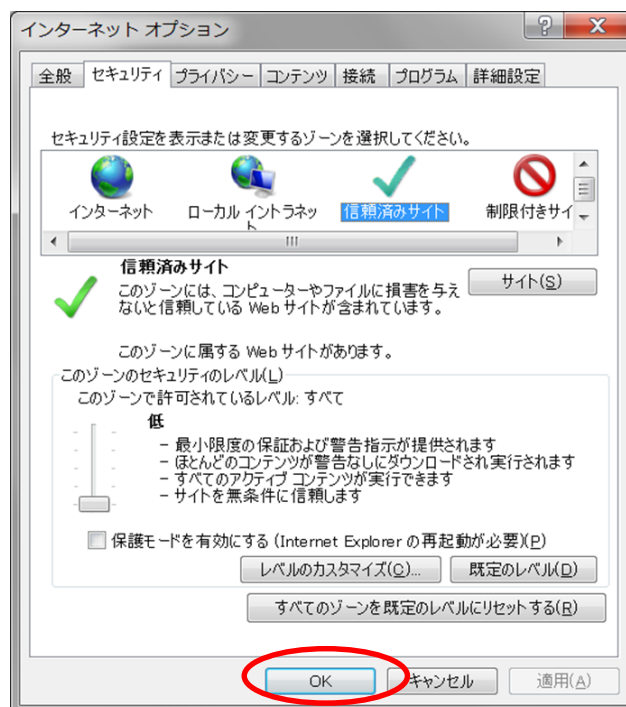
手順④：「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『https://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを ON にします。『追加』ボタンを押します。



手順⑤:「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『http://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを OFF にします。『追加』ボタンを押します。

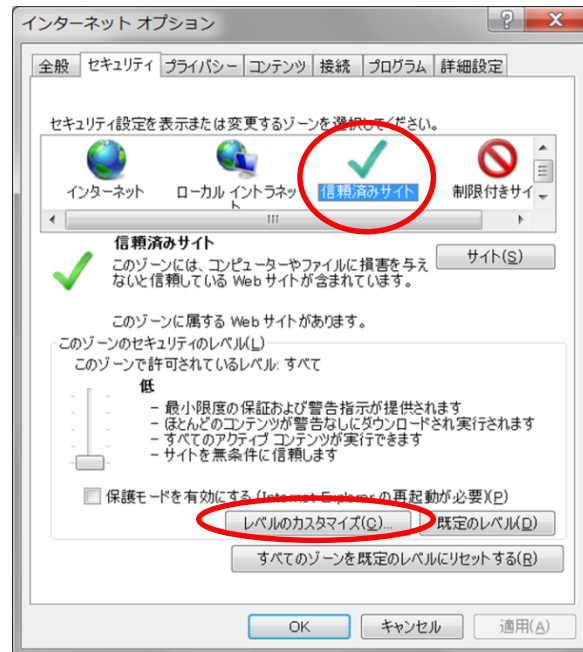


手順⑥:「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



2) レベルのカスタマイズ

手順①：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンを押します。



手順②：「セキュリティ設定」画面の各項目を下記の通りに設定し、「OK」ボタンを押します。赤枠の項目を確認して設定して下さい。

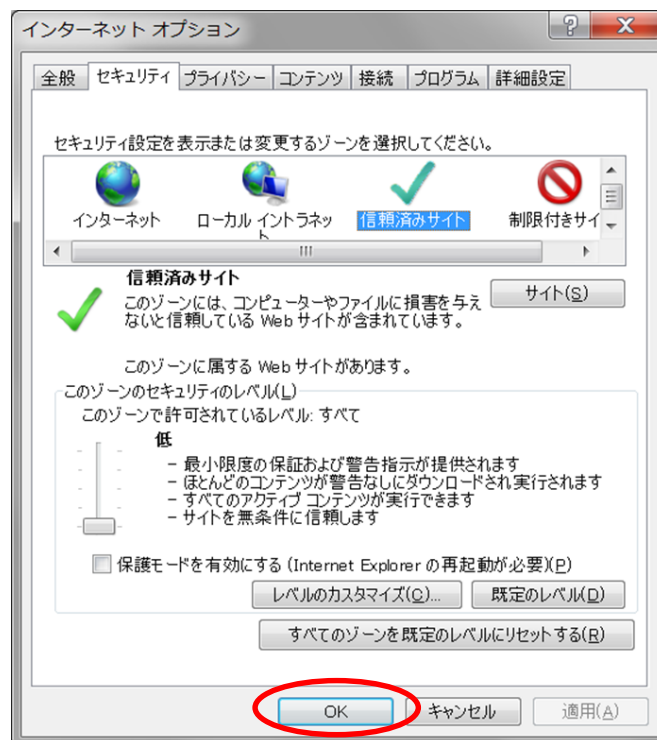
- ☒ .NET Framework
 - ☐ Loose XAML
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ XAML ブラウザー アプリケーション
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ XPS ドキュメント
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ .NET Framework セットアップを有効にする
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ .NET Framework 依存コンポーネント
 - ☒ Authenticode で署名したコンポーネントを実行する
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☒ Authenticode で署名しないコンポーネントを実行する
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☒ マニフェストがあるコンポーネントのアクセス許可
 - ☒ 安全性 - 高
 - ☐ 無効にする

-  ActiveX コントロールとプラグイン
-  ActiveX コントロールとプラグインの実行
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 管理者の許可済み
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  ActiveX コントロールに対して自動的にダイアログを表示
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  ActiveX フィルターを有効にする
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  ActiveX を警告なしで使用することを承認済みのドメインに
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 -  スクリプトレットの許可
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  バイナリ ビヘイビアースクリプト ビヘイビアー
 - ☐ 管理者の許可済み
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  外部メディア プレーヤーを使用しない Web ページのビデ
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  署名された ActiveX コントロールのダウンロード
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  前回使用されなかった ActiveX コントロールを警告なし
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  未署名の ActiveX コントロールのダウンロード
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
-  スクリプト
-  Java アプレットのスクリプト
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 -  XSS フィルターを有効にする
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする

- ☒ アクティブ スクリプト
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ スクリプトでのステータス バーの更新を許可する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ スクリプトによる貼り付け処理の許可
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ スクリプト化されたウインドウを使って情報の入力を求
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ その他
 - ☐ IFRAME のプログラムとファイルの起動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ Microsoft Web ブラウザー コントロールのスク
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ MIME スニффイングを有効にする
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ SmartScreen フィルター機能を使う
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
 - ☐ UserData の常設
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ Web サイトがアドレス バーやステータス バーのない Web ページを有効にする
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ Web ページが、制限されたプロトコルをアクティブ コ
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ アプリケーションと安全でないファイルの起動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ サーバーにファイルをアップロードするときにローカル デ
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ サイズや位置の制限なしにスクリプトでウインドウを開く
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ ドメイン間でのデータ ソースのアクセス
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☐ ファイルのドラッグ/ドロップ、またはコピー/貼り付け
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする

- ☐ ページの自動読み込み
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ ポップアップ ブロックの使用
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ より権限の少ない Web コンテンツ ゾーンの Web サ-
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 暗号化されていないフォーム データの送信
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 異なるドメイン間のウィンドウとフレームの移動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しないは
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 混在したコンテンツを表示する
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ ダウンロード
 - ☒ ファイルのダウンロード
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
 - ☒ フォントのダウンロード
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☒ ユーザー認証
 - ☒ ログオン
 - ☐ イン트라ネット ゾーンでのみ自動的にログオンする
 - ☐ ユーザー名とパスワードを入力してログオンする
 - ☒ 現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする
 - ☐ 匿名でログオンする

手順③: 「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



→ [概要へ戻る](#)

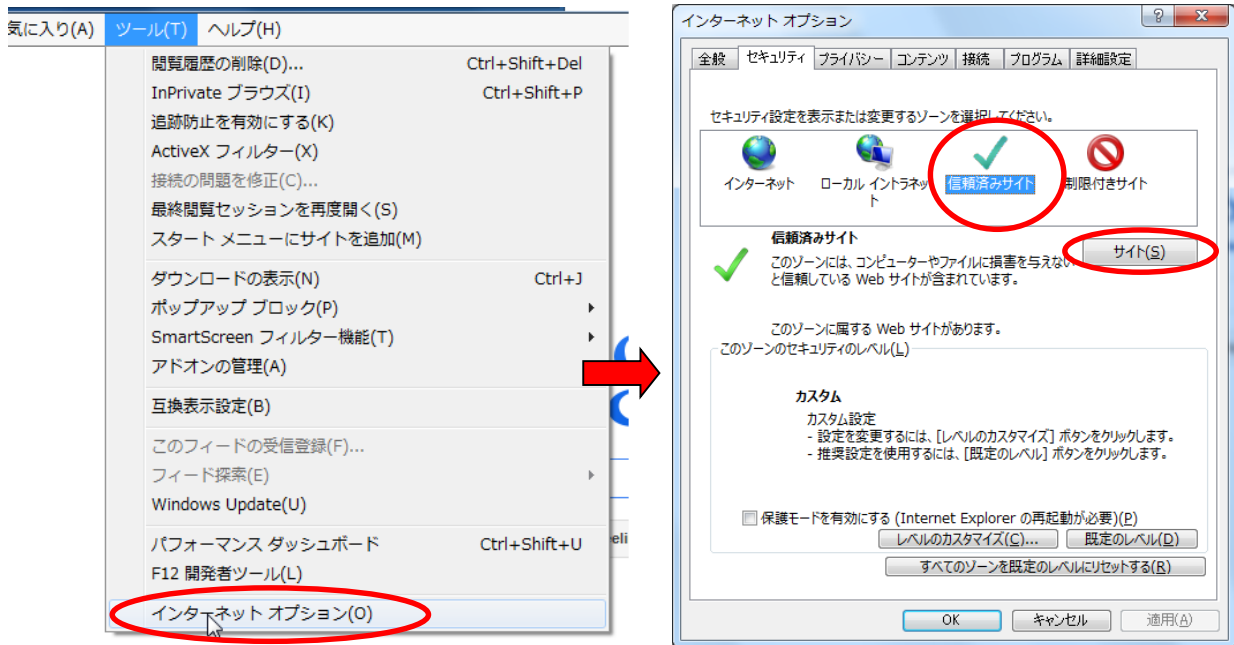
(4-3) IE10,11 の設定手順

1) 信頼済みサイトの追加

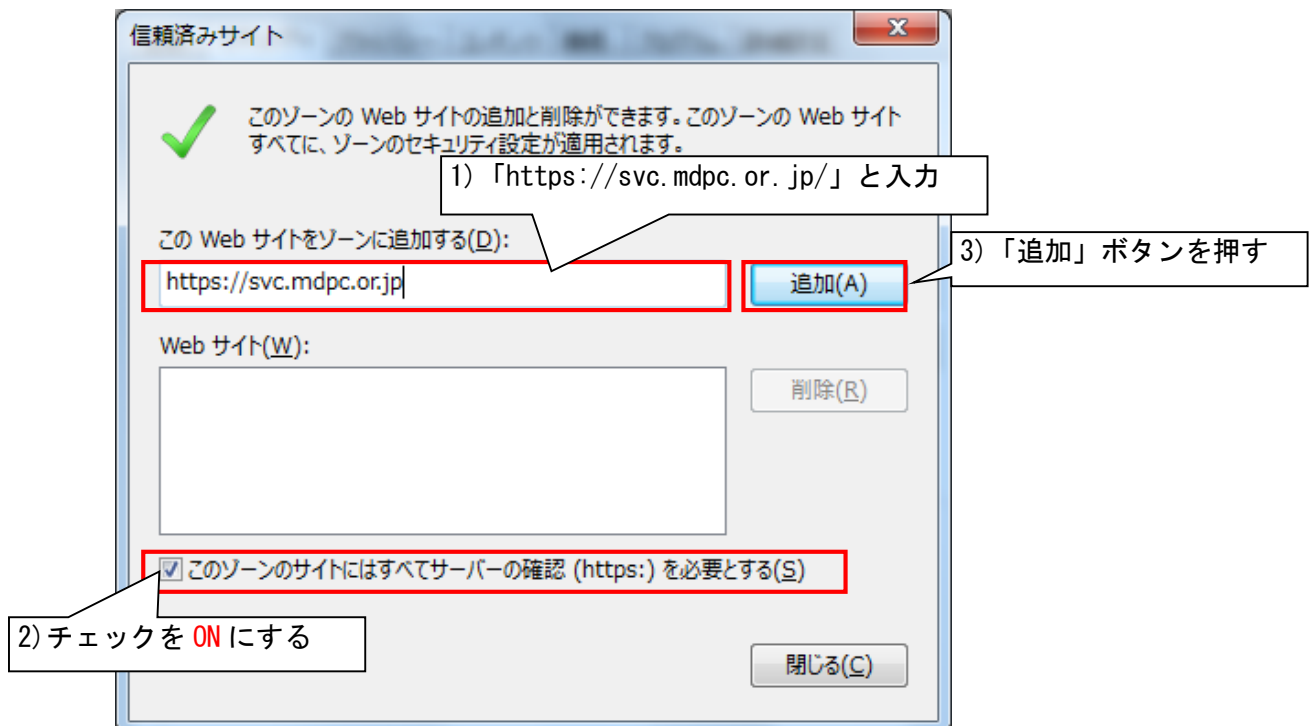
手順①：ブラウザ(Internet Explorer)を起動します。

手順②：「ツール／インターネットオプション／セキュリティ」メニューを選択します。

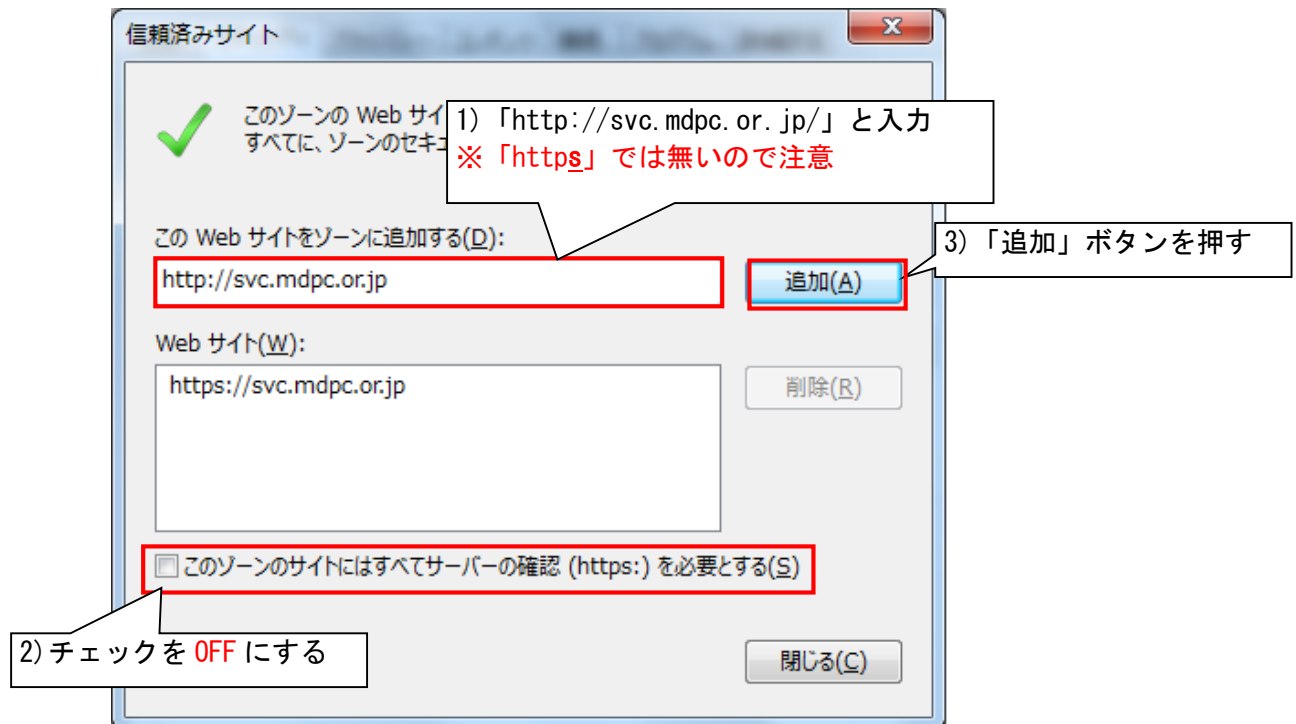
手順③：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「サイト」ボタンを押します。



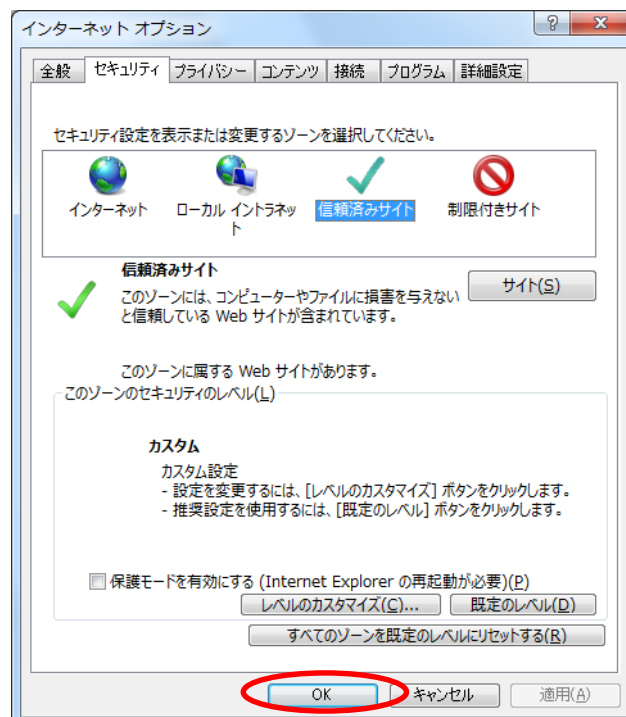
手順④：「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『https://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを ON にします。『追加』ボタンを押します。



手順⑤:「信頼済みサイト」画面で、「次の Web サイトをゾーンに追加する」に『http://svc.mdpc.or.jp/』と入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」のチェックを OFF にします。『追加』ボタンを押します。

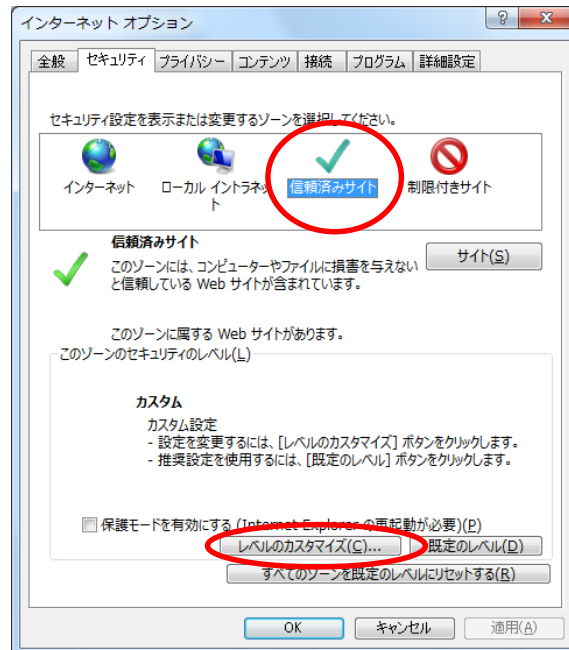


手順⑥:「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。

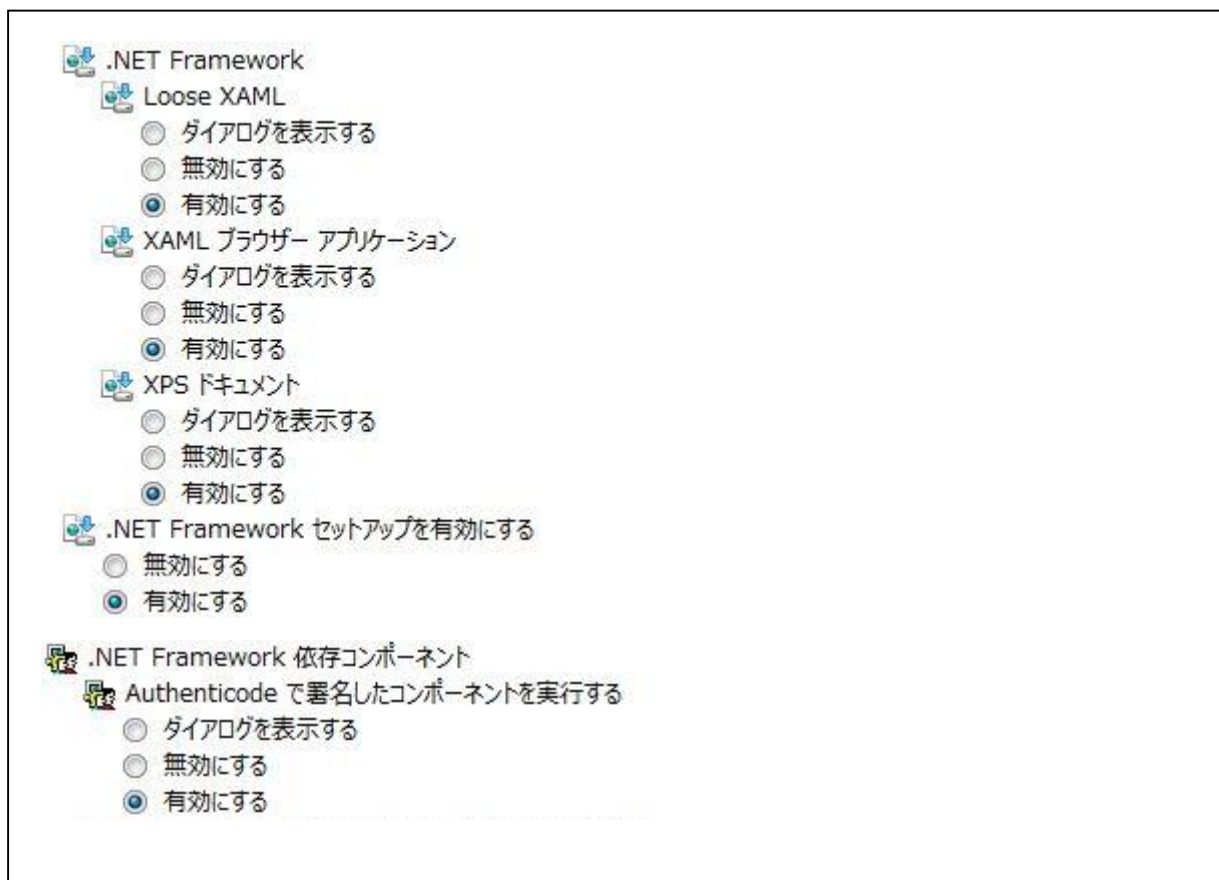


2) レベルのカスタマイズ

手順①：「セキュリティ」タブの「信頼済みサイト」を選択し、「レベルのカスタマイズ」ボタンを押します。



手順②：「セキュリティ設定」画面の各項目を下記の通りに設定し、「OK」ボタンを押します。赤枠の項目を確認して設定して下さい。



 Authenticode で署名しないコンポーネントを実行する

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 マニフェストがあるコンポーネントのアクセス許可

- ☒ 安全性 - 高
- ☐ 無効にする

 ActiveX コントロールとプラグイン

 ActiveX コントロールでのマルウェア対策ソフトウェアの実行

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 ActiveX コントロールとプラグインの実行

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 管理者の許可済み
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 ActiveX コントロールに対して自動的にダイアログを表示

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 ActiveX フィルターを有効にする

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 ActiveX を警告なしで使用することを承認済みのドメインにのみ許可する

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 スクリプトレットの許可

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 スクリプトを実行しても安全だとマークされていない ActiveX コントロールの

- ☐ ダイアログを表示する
- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスク

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 バイナリ ビヘイビアースクリプト ビヘイビアース

- ☐ 管理者の許可済み
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 外部メディア プレーヤーを使用しない Web ページのビデオやアニメーション

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 署名された ActiveX コントロールのダウンロード

- ☒ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☐ 有効にする

 前回使用されなかった ActiveX コントロールを警告なしで実行することを許す

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 未署名の ActiveX コントロールのダウンロード

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 スクリプト

 Java アプレットのスクリプト

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 XSS フィルターを有効にする

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 アクティブ スクリプト

- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 スクリプトでのステータス バーの更新を許可する

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 スクリプトによる貼り付け処理の許可

- ☒ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☐ 有効にする

 スクリプト化されたウィンドウを使って情報の入力を求めることを Web サイトに許可する

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 その他

 IFRAME のプログラムとファイルの起動

- ☒ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☐ 有効にする

 Microsoft Web ブラウザー コントロールのスクリプトの実行を許可する

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 MIME スニッフィングを有効にする

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 SmartScreen フィルター機能を使う

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 UserData の常設

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 Web サイトがアドレス バーやステータス バーのないウィンドウを開くのを許可する

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

- ☐ Web ページが、制限されたプロトコルをアクティブ コンテンツに使用すること
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ アプリケーションと安全でないファイルの起動
 - ☒ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ サーバーにファイルをアップロードするときにローカル ディレクトリのパスを含め
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ サイズや位置の制限なしにスクリプトでウィンドウを開くことを許可する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ ドメイン間でのデータ ソースのアクセス
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ ドメイン間での個別のウィンドウへのコンテンツのドラッグを許可する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ ドメイン間での同じウィンドウへのコンテンツのドラッグを許可する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ ファイルのドラッグ/ドロップ、またはコピー/貼り付け
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ ページの自動読み込み
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ ポップアップ ブロックの使用
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする
- ☐ より権限の少ない Web コンテンツ ソーンの Web サイトがこのゾーンに属する
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ レガシ フィルターをレンダリングする
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 暗号化されていないフォーム データの送信
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☐ 無効にする
 - ☒ 有効にする
- ☐ 異なるドメイン間のウィンドウとフレームの移動
 - ☐ ダイアログを表示する
 - ☒ 無効にする
 - ☐ 有効にする

 既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しない場合の証明書の選択

- ☒ 無効にする
- ☐ 有効にする

 混在したコンテンツを表示する

- ☒ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☐ 有効にする

 ダウンロード

 ファイルのダウンロード

- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 フォントのダウンロード

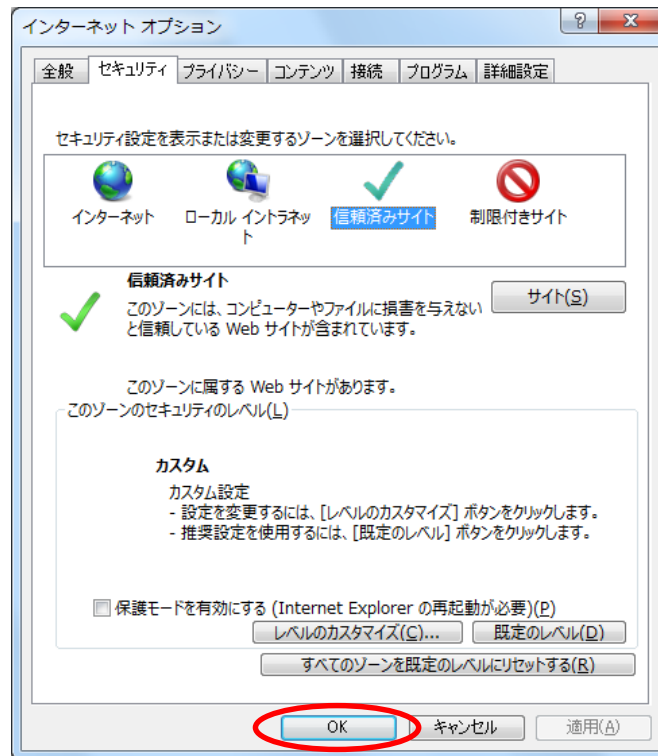
- ☐ ダイアログを表示する
- ☐ 無効にする
- ☒ 有効にする

 ユーザー認証

 ログオン

- ☒ イン트라ネット ソーンでのみ自動的にログオンする
- ☐ ユーザー名とパスワードを入力してログオンする
- ☐ 現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする
- ☐ 匿名でログオンする

手順③ : 「インターネット オプション」画面で「OK」ボタンを押します。



→ [概要へ戻る](#)

(5) 「互換表示」設定の解除手順

手順①：メニューの「ツール」を選択します。



※メニューが表示されていない場合、ブラウザ画面上段でマウス右ボタンを押すとメニューが表示されますので、メニュー内の「メニューバー」を選択して下さい。



手順②：メニューの「互換表示」にチェックがあった場合、マウスで選択しチェックを外します。



または、アドレスバーの互換表示ボタンをクリックします。

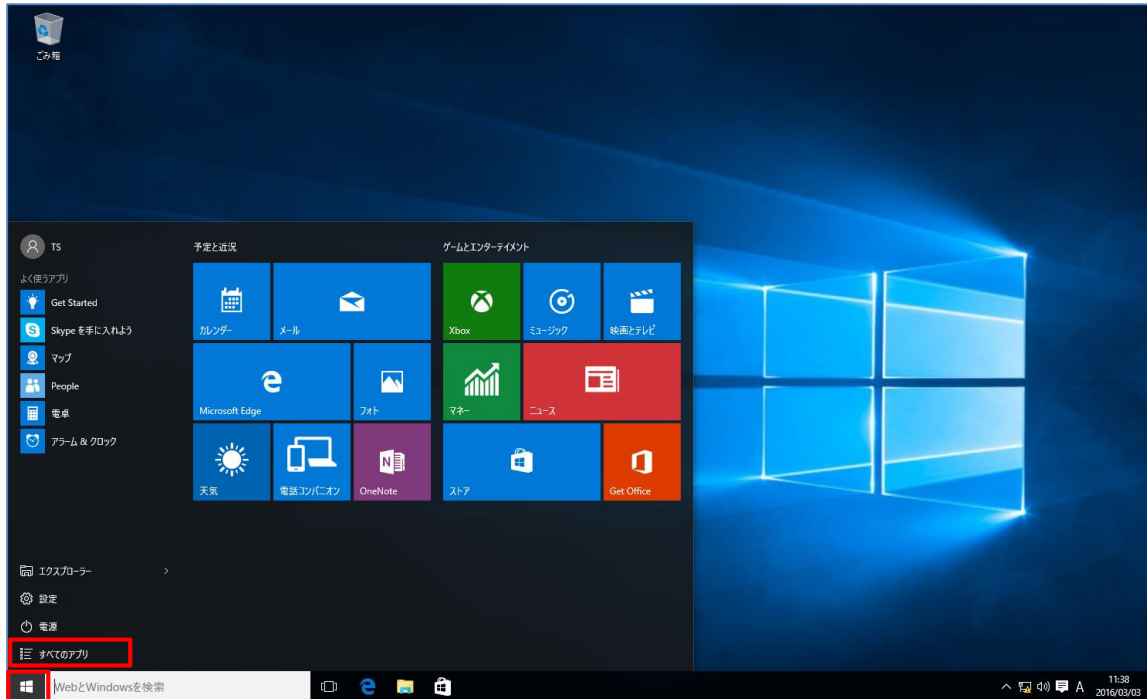


→ [概要へ戻る](#)

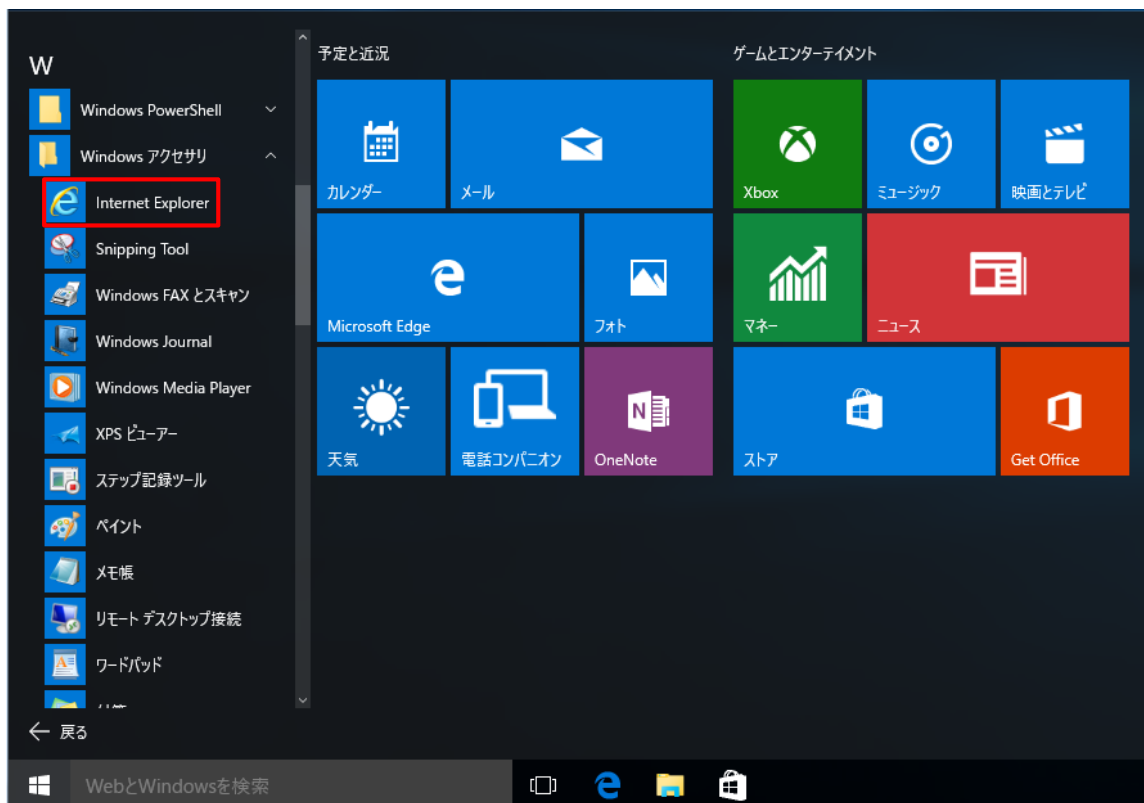
(6) Windows10 の注意点

Windows10 では新しいブラウザ Microsoft Edge が既定のブラウザとなっていますが、このブラウザでの動作保障はしておりませんので、Internet Explorer をご使用ください。

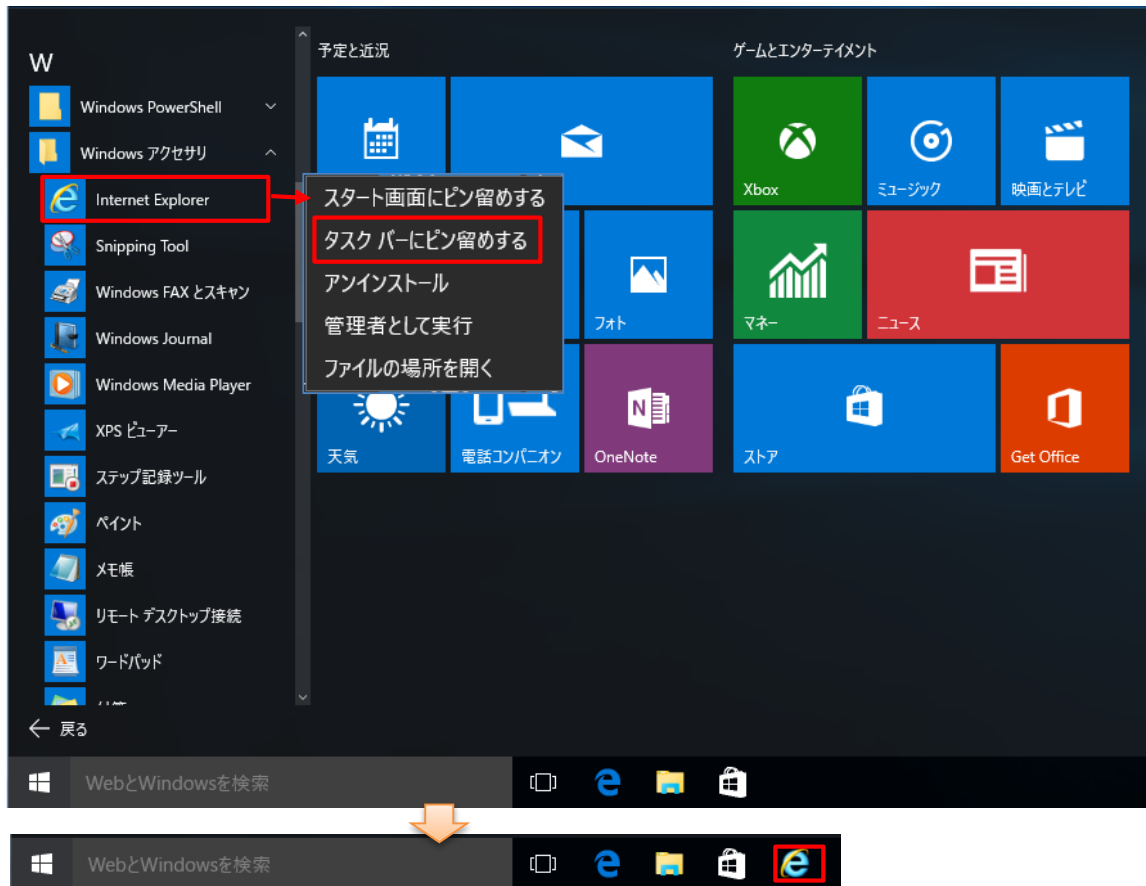
Windows10 で Internet Explorer は[スタートメニュー]－[すべてのアプリ]から起動できます。



アプリケーションの一覧から[Internet Explorer]を選択し起動します。



アプリケーションの一覧の[Internet Explorer]を選択し、マウス右ボタンのマウスメニューの[タスクバーにピン留めする]をクリックすると、タスクバーに Internet Explorer が表示され、タスクバーからの起動が可能となります。



→ [概要へ戻る](#)